

女性史学賞について

昨今、日本史、外国史ともに、女性史研究者の数はまちがいなく増加しており、その成果も増加している。その結果、女性史研究の蓄積と進展は、歴史的過去の人々の生き様に従来とは違う観点を与えて、また、より豊かで異なった歴史認識・歴史像を提供しつつある。

しかしながら、いまだに社会の各分野で活躍する女性はまだまだ少数であり、昨今の政治や教育の場面ではジェンダーバッシングの動きが広がっている。女性史研究者の数は増加しても、その主たる担い手の女性が研究職に就くことが出来る割合は依然として少なく、極めて困難な状況下で研究を余儀なくされている現実がある。そのような状況を鑑みて、第一に、歴史学研究において、もっと過去の女性の存在を明確にし、その位置づけをはっきりさせる女性史研究の展開をもって豊かな歴史学研究の進展を図らねばならないということ、第二に、女性の活躍を鼓舞し、女性の置かれた位置を歴史的な変化の中で確かめるべく、女性史研究者(男女を問わず)の育成を図る一助になるようにという抱負をもって、2005年、脇田晴子先生を中心としまして、女性史学賞選定委員会が結成された。その時から現在まで選定委員は替わっていない(日本史関係では脇田晴子さん、武田佐知子さん、成田龍一さん、東洋史関係では岸本美緒さん、西洋史関係では河村貞枝さん)。候補作推薦の推薦は、個人および出版社等、膨大な対象者に送付して、幅広く御意見をいただいている。

(ウィメンズ アクション ネットワーク (WAN) のホームページより)